ボーリング柱状図

調　査　名　中央消防署移転改築工事地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.1	調査位置	福岡市中央区那の津2丁目地内					北緯	33°35'57.1"
発注機関	福岡市消防局総務部管理課			調査期間	平成27年7月30日 ～ 27年8月3日			東経	130°23'37.9"
調査業者名	株式会社アイ・デベロップ・コンサルタンツ 電話(092-581-1732)	主任技師	柴田秀道	現場代理人	平尾正名	コア鑑定者	金子博信	ボーリング責任者	山田恵治
孔口標高	2.228m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	
総掘進長	35.16m							試錐機	YBM-05
								ハンマー落下用具	半自動型
								エンジン	HFAD-8
								ポンプ	GP-5

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
	1.63	0.60	0.60		礫混り砂	褐			表層土。礫点在	埋立土	
1 2	-0.52	2.15	2.75		粗砂	淡黄灰～茶灰	極緩い～緩い		細粒分含有量は少ないが粒度分布は広い 含水量はGL-1.5m以深で多くなる 径～5mm程度の小礫を混入。 下部は粗粒化し礫分含有量も増加する。	沖積層	7/30 7/30
3 4	-1.87	1.35	4.10		シルト質細砂	暗灰	緩い		粘性土分を多く混入し全体に細粒であるが、粒度分布は広い 貝殻片及び雲母片混入 含水量は多い 部分的に弱い粘性が有る		
5 6 7	-5.52	3.65	7.75		シルト質粘土	暗灰		極軟い	貝殻片を混入し、下部では貝殻混入量が多くなる 含水量は中位～多く軟質である 少量の細砂分を混入するがほぼ均質である 細砂の薄層を挟む		
8 9 10	-8.52	3.00	10.75		粘土混り中砂	暗灰	極緩い～緩い		中砂～細砂分を主とするが、粘性土分を多く混入し一部に若干の粘性が有る 全体に不均質で粒度分布は広い 含水量は多い GL-9m付近は粗粒化し粗砂分の含有量が多くなる		
11 12	-10.52	2.00	12.75		シルト混り粗砂	淡灰	中位の		中砂～粗砂分を主とし、全体に粗粒であるが、粘性土分の含有量も多く、粒度分布は広い 含水量は中位～多い 径mm程度の小礫を混入	洪積層	
13 14	-12.52	2.00	14.75		粘土質中砂	淡灰	緩い		粗砂～中砂分を主とするが、粘性土分を多く混入し、弱い粘性が有る。 粒度分布は広い。小礫を混入。 粘土分含有量が多い部分は半ば固結する		
15	-13.37	0.85	15.60		シルト質細砂	暗灰	中位の		細砂分を主とするが、粒度分布は広く全体に不均質。含水量は中位。弱粘性の粘性土薄層挟む。		
16 17	-15.17	1.80	17.40		シルト質粘土	淡青灰		中位の	含水量は中位で粘性が強い 比較的均質であるが、下部には少量の砂分を混入する 腐植物混入		
18 19	-17.27	2.10	19.50		粘土質中砂	淡茶灰	中位の		中砂～細砂分を主とするが、粘性土分を多く混入し、若干の粘性が有る。含水量は中位。 全体に不均質で粒度分布は広い GL-19m付近は付近はやや細粒化し、粘土分含有量が多くなるが、GL19.3m付近では粗粒となる		
20 21	-19.07	1.80	21.30		粘土質細砂	淡青灰	中位の		細砂～中砂分を主とするが、粘土分含有量が多く、粒度分布は広い。 含水量は中位～多い 径mm程度の小礫を混入する 全体に不均質である		
22 23	-20.77	1.70	23.00		細砂	暗灰	緩い～中位の		細砂分を主とするが、強粘性の粘性土薄層を挟む 含水量は中位 砂の粒度分布は広い 全体に不均質である		
24	-22.07	1.30	24.30		シルト混り中砂	淡灰	緩い		中砂～細砂分を主とするするが、粘性土分含有量が多く、粒度分布は広い。含水量は多い。 上部、粘性土分多く粘性が強い。 半ば固結するが、指圧で崩れる。		
	-22.47	0.40	24.70		シルト質砂	暗茶灰		硬い	含水量は少。半ば固結するが、指圧で崩れる。花崗岩質の砂が主		
25 26	-24.27	1.80	26.50		粘土質中砂	淡茶灰	中位の		中砂～粗砂分が主。粘性土分多く混入し、若干の粘性有り。 粒度分布広い。含水量は中～多。 ブロックは指圧で崩れる 上部、径30mm程度の小礫を混入		
27 28	-26.12	1.85	28.35		礫混り粘土質中砂	青灰	緩い～中位の		中砂～粗砂分を主とするが、粒度分布は広い。粘土分及び径3～5mm程度の礫分を混入。 含水量は中位。半ば固結するが、指圧で容易に崩れる。		
29	-27.27	1.15	29.50		風化花崗岩	茶灰			半ば固結した粘土状を呈するブロックは指圧で崩れ強粘性の粘土状となり、岩芯は殆ど残らない。含水量は少ない。	古第三紀層	
30 31 32 33 34 35	-32.93	5.66	35.16		風化花崗岩	暗灰			L=10cm程度の硬質コアとなる 強い指圧でも崩れ難い 径10mm程度以上の岩芯が残る 含水量は少ない 炭化物を挟む 均質で硬い GL-30m以深では低品位の褐炭を挟み褐色化する		
36											

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1			1/35	1
1.50 2.15	1	2	2	5/30	5
2.45 3.15	1	1	2	4/30	4
3.45 4.15	1			1/30	1
4.45 5.00	0	1		1/50	1
5.50 6.00	ハンマー自沈			0/30	0
6.45 7.00	ハンマー自沈			0/30	0
7.45 8.15	1	1		2/35	2
8.50 9.15	2	2	2	6/30	6
9.45 10.15	1	2	2	5/30	5
10.45 11.15	3	3	4	10/30	10
11.45 12.15	3	4	4	11/30	11
12.45 13.15	2	2	2	6/30	6
13.45 14.15	2	2	3	7/30	7
14.45 15.15	5	3	3	11/30	11
15.45 16.15	1	1	2	4/30	4
16.45 17.15	2	1	3	6/30	6
17.45 18.15	3	5	5	13/30	13
18.45 19.15	1	3	8	12/30	12
19.45 20.15	4	5	5	14/30	14
20.45 21.15	3	3	3	9/30	9
21.45 22.15	4	5	4	13/30	13
22.45 23.15	3	2	3	8/30	8
23.45 24.15	3	4	4	11/30	11
24.45 25.15	3	5	5	13/30	13
25.45 26.15	3	4	6	13/30	13
26.45 27.15	2	3	3	8/30	8
27.45 28.15	4	7	7	18/30	18
28.45 29.15	3	4	5	12/30	12
29.45 30.15	9	15	31	55/30	55
30.45 31.15	44	16/3		60/13	138
31.28 32.15	47	13/2		60/12	150
32.27 33.15	60/8			60/8	225
33.23 34.10	60/4			60/4	450
34.14 35.10	60/6			60/6	300
35.16					

原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取

深度(m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日

7/30
7/31
8/1
8/3

・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。